

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

「情けは人の為ならず」という諺があります。この意味するところは、人に情けをかけるという行為は、人の為になるばかりではなく、やがてはめぐりめぐって自分に返ってくるという意味です。つまり、人には親切にせよという教えです。

ここでは、行為に対する見返りを求めている部分は問題ですが、こうした言い方をしながら、人に対する情けを助長しているものだと思います。こういう諺は少なくありません。

夏目漱石の「草枕」の冒頭には、「智（ち）に働けば角（かど）が立つ。情（じょう）に棹（さお）させば流される。意地を通せば窮屈（きゅうくつ）だ。とかく人の世は住みにくい。」という文章があります。この文章は、この世で生きるのは難しいというわけですが、情という川に舟を浮かべ棹で加速すれば流されると戒めています。

ここで問題としたいのは、“情け”は エゴ（心）なのか意識（魂）なのかということです。この種のものは、「生命の科学」を長年学習していても、なかなか理解できないところなのです。

ここで紹介した2例は、人の“情け”を肯定しているものです。情けは、人の心の部分であり、各自が人生の経験をもとに培ってきている感情です。情け深い人は、情けの重要性を強く認める人で、やさしい人であり、他人から尊敬される一方、行き過ぎた情けは、余計なお世話であり、自立を妨げるおそれもあります。

おそらく、情けがない世の中では、ここまで人類は生き延びられなかったかもしれません。それほど重要なものであると思われる。

経験的に言えるのは、情けの発動は意識から出ているということです。この場合は、愛としてのメッセージです。しかし、それに反応した後、運用の段階では知恵を要するという事なのです。つまり、意識が発動し、これに呼応して英知で対応する。ここは、大変高度な部分であり、地球上では、このようなステップを踏むことが多いのです。英知に裏付けされない情けは、相手を不幸にするばかりではなく、そのように振る舞った自分自身も不幸なこととなるでしょう。

## “言葉に注目”

### <奉仕することを選ぶ人は少数です>

by アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

これは、「魂と心」という章で書かれているものです。「“魂”は神なる“父”に奉仕しようと大声で叫びつづけています。」と書き、「しかし、“心”は、“心”自体に奉仕したがついています。」と言います。そして、万人は創造された目的を達成するよう要求されているが、表題のように、奉仕することを選ぶ人は少ないというのです。この理由は、心は人間を信じているのであって神を信じていないからだと言っています。

アダムスキーは、はっきりと「“スペースブラザーズ”を通じてもたらされた神なる“父”の教えは、この世の黄金と一時的な心の満足とのために売られてしまったのです。」と書いています。これは、地球人が、この世の報酬と安全に立ち返って行動しないからです。

この結果、アダムスキーは必要な援助を受けられないと言っています。同じことが、私たちの活動に言えるわけで、身の安全も大切ですが行うべきことを行えるよう心したいと思います。

## 「生命の科学」学習のポイントPart46

レクチャー4「万物の相互関係」の4回目、「物品の波動を感受して知識を得る方法」です。

初めに、「生命体の体験の記憶は、その個体の細胞内の各分子内に記憶される・・・。」ことを最近化学者が発見したと書いています。そして、人体は無数の細胞から成り、細胞は分子から成っていて、過去、現在、未来の記憶の型を運んでいるとしています。

続いて、これらの分子は、個人の肉体と心が行った進歩の記憶を運ぶだけではなく、あらゆる物質の記憶を運ぶと書いています。更に、「これは意識として知られる記憶分子によって導かれる個体成長の基礎である・・・。」と書いています。

この辺のところは、地球人で知り得ない大変貴重なことを伝えたものです。まず、細胞は記憶を運ぶということですが、これは、単に DNA のことを言っているわけではありません。心と体の記憶だけではなく、あらゆる物質の記憶を運ぶと書いています。つまり、個としての体験の記憶と、他の総ての物質の記憶を運ぶということです。これは、地球ばかりに限定されないでしょう。ここで推論されるのは、分子という形態は、生物となり得る最小の段階ですが、この状態にいて、宇宙内の万物はテレパシー的につながった意識体ということなのです。

とすれば、肉体内のこれにつながれば、何でも分かるのではないかということなのです。更に、これが「個体成長の基礎」と書いています。アダムスキーは、前段で意識と記憶分子を同格にしていることから、記憶分子は、物質的に存在する生ける神であると理解されます。後段では、記憶分子を「宇宙的な自我」と書いていることから、この推論は正しいものと思われる。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編46>

“ 巧運（こうち）は拙速（せつそく）に如（し）かず ”

これは、孫子の言葉で、上手に仕上げるために遅れるよりは、まずくても早くできる方がよいという教えです。孫子は、現実的でその点では力を発揮します。ここでの言も、一般的にはその通りであると思われます。現状を的確に把握し、このように対応することも良いでしょう。



Q：エゴか意識かの違いは？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：「生命の科学」を学ぶ上で、これは、最も根本的で最も重要な部分です。アダムスキーは、「21世紀の宇宙哲学」の後段で「自己訓練法」を提案し、ノートに非利己的想念等を右側には利己的想念等を記載して、自己チェックすることで習慣的想念は消失すると書いています。しかし、当初は、その区別ができないのですが、継続することでその違いが分かるようになります。それほど困難なことですが、この点を理解していない生徒も多いと思います。

### 書物紹介

『日本の古代史 本当は何がすごいのか』 武光 誠 著（株）育鵬社・扶養社

著者の武光氏は、明治学院大学教授で正統派の古代史研究者です。紀元前後の邪馬台国時代は、日本人が国をつくろうと動き出した興味深い時代で、三世紀半ば時代まで続きました。

この転換の時期、奈良盆地に大和朝廷というずば抜けた勢力が誕生し、この大王の子孫が現在の皇室の先祖に当たるということです。朝廷は、海外（百済）等からの農業や鉄器製造などを地方に普及し、アジア大国や西洋列強とは異なり暴君でない支配を確立したということです。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成26年7月12日（土）、9月6日（土）、11月8日（土）は、府中グリーンプラザ（宇宙を知る会等の名称で予約）。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。1月以降の予定は、7月開催以降に調整する予定です。

### 【編集後記】

エゴなのか意識なのか、この区別がつかないのが地球人です。しかし、「生命の科学」の実践には、これを知らなくてはなりません。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第46号>

発行日 平成26年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

「カルマ」という言葉があります。これは、サンスクリット語で karma、パーリー語で kamma、ヒンディー語で kam または karm というようにインドの言葉で、「行い」、「作業」、「用事」という一般的な意味があるようです。

仏教聖典では、karma を“業”と訳し“自業自得”という解釈をしています。これは、いい行為をすればいい結果がもたらされ、悪い行為をすれば悪い結果がもたらされるということで、「因果応報」とも言われています。

アダムスキーの「生命の科学」では、これを“原因と結果”と言っています。この種の名前の本も多いように、今なお地球人に関心の高い分野のようです。

アダムスキーが、金星の母船に乗船した際、絶世の美女と表現した金星の女性の名に“カルナ”と仮名を付けましたが、彼女は、イエスの地球上での前世と思われる仏陀を支援する立場にいたようです。そこでアダムスキーが、カルマをもじってカルナと名付けたのでしょう。アダムスキーが、最初に乗船した際の人々は、オーソン（金星人）を仏陀以前の古代から支えているグループの人たちだったようです。

カルマを思わせる表現は、「第2惑星からの地球訪問者」（中央アート出版社）のラミュール（土星人）とファーコン（火星）とのレストランでの会談の中にもあります。「たびたびくり返された人類の重荷と苦悩は数千年間記憶され、克服できないほどに人間の魂にのしかかっているのです。」と言っています。

これは、積み重なる過失の重みで、どうにもならない現在の地球人を意味しています。イスラエルとパレスチナの紛争を挙げるまでもなく、このようなカルマを断ち切ることが出来なければ、成長と破壊を繰り返す現在の地球が続くのだと思われます。

紛争を例にとれば、これを絶つには、宇宙の意識（創造主）を信頼できるからこそできる“愛”しかなく、具体的には、相手を“許”すという行為なのではないでしょうか。

## “言葉に注目”

### <第二の誕生とは知覚の誕生>

by アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、「第二の誕生（生まれかわり）」という章で書かれているものです。表題の言葉は、ある種、結論的なものですが、詳細に次のような説明がされています。知覚の誕生によって、「人間は物質の束縛から解放され、時間と空間の限界からのがれるのです。それは暗黒の無知という限界から全知の知覚の世界へ意識が生まれ出ることです。」と。

この“物質の束縛”という意味は、物欲的なことばかりではなく、視覚を中心とする四官で物事を判断したり、思考しようとする習慣的なことの総てを意味しています。

更に重要なのは、“知覚”の解釈です。これはいわゆる“感じ”というもので、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、の四官の調和の上で、触覚の延長としての知覚力の覚醒によって宇宙の意識を感覚的に感じることを意味しています。これを、第二の誕生と呼んでいるわけです。言うのは簡単ですが、知覚力を高めるというのは、かなりの時間と忍耐を要するでしょう。

## 「生命の科学」学習のポイントPart47

レクチャー4 「万物の相互関係」の5回目、「DNA が生命体の基本」です。

初めに、「科学者によればDNAは生命の指示法の描かれた青写真原図であるということです。」と書いています。そして、「個体を作るときに用いられる材料は、指示を受けるためにある種の知性を持たなければならぬ・・・。」としています。このような説明の仕方は、アダムスキー特有のもので、この場合、材料である細胞は、指示を受けて変化すると言っているのです。

続いて、「進化した惑星ならば、生命の研究において、おそらくDNAの半分は女性部分と考えられ、他の半分は男性部分と考えられるでしょう。」と書いています。そして、この二つの交わりからRNAというDNAの記憶を持った使者（子ども）を生み出すと説明します。本文後段では、このDNAの説明について、男女二本の線に見立て、7～9種類の交差により特殊なメッセージを帯びた使者を生み出し、使者により記憶が継続することの重要性を説いています。

本文中頃に、「一個体中の陽子群は使者を作り出すのにきわめて重要です。」とありますが、下線の部分は、原著でもProtonsとなっていて訳としては正しいのですが、意味が通せず、ここはProtein（タンパク質）の誤植だったと解釈しています。

次に、各細胞は、それぞれ特定の役割を担う臓器等になるよう互いに調和しているが、このような知性に対して心は何も知らないで、心は協力するためにそのことを知らなければならぬと言っています。そして、「こんなふうにして過去に何が起こったか、現在何が起こりつつあるかを心が知る・・・。」と言うわけです。この辺の心の対応は、大変重要なところですよ。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編47>

#### “五里霧中”

これは、後漢書にでてくるもので、五里（約20km）四方に立ち込める深い霧の中では方向が分からなくなることから、どうしたらいいか判断に迷い、見込みが全く立たないことを言います。これは正に、宇宙の意識から離れてしまった現代人の状況に似ていると思います。



Q：放射能はSPにも害がある？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：もちろんその通りです。アダムスキーの最初のコンタクト以来、金星等の指導者から、この点を指摘されています。これは、平和利用とされる原子力発電についても言えるものと思われれます。しかし、この太陽系のほとんどの人たちは、他の太陽系へ避難している可能性があります。そもそも、この太陽系が崩壊の時期にあることと、いつになっても目覚めない地球人からの悲鳴や不調和な想念、加えて、放射能等の影響から身を防ぐためであると思われる。

#### 書物紹介

『日本人は「経済学」にだまされるな!』 中原圭介 著 (株)中経出版

著者は、現在、経済アナリストで、金融機関や地方行政での経験を経て、経済学がいかに現実の経済や経営に役立たないかを痛感したということです。本書では、安倍総理による“三本矢”で知られる経済政策は全くのウソであると指摘しています。そして、『驚かれるかもしれませんが、経済学の本質は、「金持ち」「アメリカ」「エリート」に「好都合な道具」です。』と書いています。現実の経済は、一部の人たちの好都合な道具だと気づく必要があるようです。

#### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆ 東京開催☆ 平成26年9月6日(土)、11月8日(土)、平成27年1月10日(土)、3月7日(土)は、府中グリーンプラザ(宇宙を知る会等で予約)。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

#### 【編集後記】

異常気象が続いています。異常と思われるこの状況は、現状では普通の状況なのだと思います。今後は、地殻変動にも留意が必要です。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

#### G・アダムスキー通信 <第47号>

発行日 平成26年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

G・アダムスキーの役割は何だったのでしょうか？ 彼の生き方を見ると、自分に素直に生きて人だということが伝わります。

小さい頃は、チベットで修業したという特殊な環境におかれ、生きるための揺るぎない指針やテレパシクな感性を磨いたのだと思われます。その後、家計を助けるために若くして働いていたということですが、そこでは特別な成果を上げることはなく、いくつもの仕事を経験しメアリーと結婚した後もしばらくは働いていたのだらうと思います。

しかし、テレパシクな能力を維持しようとするためなのか、固定した仕事に長く就くことはなく、30代後半には宇宙的な感性のもとに人々に語り、文字に残したりしていたようです。そのうち、アリス・ウェルズなどの弟子ができるころから、弟子に生活を支えていただくような状況でした。

こんな中、オーソン（仮名：金星人）とコンタクトするようになり、地球人に対して、原爆の危険性を初め宇宙の真相や宇宙の意識の存在、宇宙船開発の必要性など重要事項を伝えたのです。書物では、「第2惑星からの地球訪問者」など重要なものがたくさんありますが、やはり「生命の科学」により地球人に生きる指針と改善の方法を示すことが、アダムスキー最大の役割であったと感じています。書物になることで、時代を超えて理解者を増やすことができるからです。

現代の私たちは、当時のアダムスキーとは、当然ながら役割が異なると考えられます。アダムスキー以降の言わば次のステップなのだと思います。

私たちは、アダムスキーを通じて伝えられた「生命の科学」を理解・実践すれば、宇宙的な人間となれることを証明するため、社会の一員として家庭を持ち、一般人と同じように働きながらも、隣人を助け他人から尊敬されるような生活をしていくことなのだと思います。

つまり、「生命の科学」に基づき生きることで、真の自己を表現することとなり、社会生活でも成功し、幸福に生きられることを自ら証明しなくてはならないのだと思います。

## “言葉に注目”

### <知覚力の欠乏は常に自信の欠乏となり…>

by アダムスキー著『21世紀の宇宙哲学』（中央アート出版社）

上文の後に、「それがより高次の成就に向かおうとする人間を妨げるのである。」と書いています。1行おいて、「知覚力の欠乏こそ怠惰の罪の最たるものである。」と綴っています。少し置いて、「思考・・・は、“因”の魂の感知であり、知覚・・・は肉体の感覚器官の感知である。そしてこの二つは常に一体でなければならない。」としています。

知覚力がないということは、感覚器官が統一されずに感知できない無感覚となり、無知の状態を意味しています。従って、自信がないということになるのです。そのことで、高次になるはずの人間の成長が妨げられるというのです。だから、これを怠惰の最たるものと非難しているのです。この辺は、極めて重要なところです。

思考は、因の魂の感知ということですが、これは本来の思考のメカニズムを意味しているようです。通常は、エゴを中心としたものとなるようです。

## 「生命の科学」学習のポイントPart48

レクチャー4 「万物の相互関係」の6回目、「心は人体内の英知に気づかない」です。

冒頭、「これが、人間の「意志」が右の過程の「意志」に身をゆだねなければならぬ理由です。ただし人間の意志が自己の正体やその存在の理由を知ろうとするならばです。」と書いています。

この右の過程の「意志」というのは、前回説明したDNA（半分男性、半分女性）からメッセージを帯びた使者が生み出され、それは、過去から今日までの総てを記憶している「知る」ものであり、その記憶には創造者の意志が込められていることを意味していて、これらは総て人間界の生活とは関連なく別個に行なわれているということです。

そして、「心だけで生きているわれわれはみな自分の肉体内で何が起きているかについてほとんど知らない・・・。」と語り、「・・・肉体内で起こる物事のすべてを知ることが心の義務であり特権であるのです。」と書いています。こうして、心自らが創造された目的を果たし、不安から起こる混乱と恐怖を排除できるとしています。

続いて、心が、人体内の意識的な英知の働きにほとんど気づかないとして、寝ているときの人体の維持を例に、「こうして、けっして休むことのないある種の英知が存在することが実証できます。だから心も「知る者」となるためにはこの英知と一体化しなければなりません。」と書いています。こうすれば、不快な生活は解消され、物事の目的が理解できるとしています。問題は、どうしたら一体化できるのかということです。そこが、「生命の科学」が伝える最重要な部分です。そのためには、一つ一つ、心（エゴ）が深く学んでいくことなのだと思います。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編48>

#### “袖すり合うも他生の縁”

見知らぬ人と道で袖が触れ合うことも前世からの因縁によるものであり、どんな小さな出来事でも総て偶然に起こるのではなく、深い宿縁によって起こるものであるということです。他生は、前世と来生の意味で、多少と書くと何度も生まれかわる意味があるようです。



Q：プラス思考は良い結果を生む？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かにそのような場合もあります。しかし、アダムスキーは、これは一方づいた考えで、マイナス思考も併せて考えないといけないという趣旨を語っています。総ては、NとS、陰と陽、プラスとマイナスなど相反する力があります。このどちらも活用しながら、どちらにも偏らない中庸な生き方が重要なようです。中庸とは、単に中間という意味ではなく、その場その場により異なるもので、そのバランス感覚が重要なのだと思われます。

#### 書物紹介

#### 『移民亡国論』 三橋 貴明 著 (株)徳間書店

2014年3月、内閣府から、「毎年20万人の移民を受け入れることで、今後100年間は人口の大幅減少を避けられる」という試算を受け、国内での関心が高まったことから、著者は、その危険性についてスウェーデン等の状況を踏まえ警鐘を鳴らしているものです。

そもそも内閣府が、このような試算をだすこと自体に不信感を持ちますが、多文化共生の名のもとに施策が進められている現状を鑑み、何等かの圧力があるのかと推察してしまいます。

#### 学習会案内

#### 『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成26年11月8日(土)、平成27年1月10日(土)、3月7日(土)、は、府中グリーンプラザ(宇宙を知る会等で予約)。5月9日(土)以降は、台東区民会館となります。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

#### 【編集後記】

いよいよ、アダムスキー問題について、動きが出てくる時代になったと認識しています。宇宙、歴史、世界がキーワードです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

#### G・アダムスキー通信 <第48号>

発行日 平成26年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

本年4月、G・アダムスキー没後、満50年となります。彼は、誕生日が来て1週間も経たない1965年4月23日に満74歳で亡くなりました。これは、「生命の科学講座」が完了して翌月のことでした。変化の激しい今日、50年（半世紀）という時間の経過は、昔のことであり没後ということになれば、なおさらその存在は古い話ということになるでしょう。

こうして、地球の歴史が始まって最も大きな節目であり、スペースプログラムに位置づけられているアダムスキーの活動が風化してしまいそうな状況です。誠に、残念なことです。

このような状況に対して、アダムスキーの伝えた事柄を肯定し、理解できる側に属する私たちの非力さは、歴史上において非難されても仕方がないのかも知れません。

では、何が足りなかったのでしょうか。これには、大きく2つあると考えられます。

1つは、アダムスキーを肯定できる証拠（ネガ記号解読を含む）が提示できなかったこと。

2つには、「生命の科学」の実践的な手法の周知が未完であること。

この影響は、確かに大きいと考えられます。しかし、それは、地球上でのことであり、宇宙的に見ると大きな事ではないのです。これらに関わるべき人は、必ずここにたどり着くという法則が厳然と存在しているからです。後は、その人がどう理解し活用していかという問題です。

これは、正しいのですが、地球上に生きる私たちは、先の2つのことを理解しつつ、気づく可能性を高く保つよう、継続して努力していく必要はあると考えています。

地球上で、アダムスキーが伝えた事柄が普及しないのは、普及しないような力が常に存在しているということなのです。アダムスキーは、普及して当然と言えるだけの活動をしています。公私ともに王侯貴族、時の権力者など、あらゆるところに様々なメッセージを発信しているのです。これは、全世界的には行われなかったものの、小さな声というものではありませんでした。地球の側で受け入れる準備さえあれば、他の惑星の真実等を公表し、国と国との垣根を越えた友好の輪が先行したことでしょう。この辺の真実を、深く認識する必要があると考えています。

## “言葉に注目”

### <三〇億の人間が地球の表面から突然一掃されたらどうなるでしょうか>

by アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

表題の問いに続いて、「おそらく全人類の九九パーセントは永遠というものを知らないで消滅するでしょう。」と書いています。それは、習慣によって生きているからだということです。

私が、この部分を掲載するのは、今の地球人が、現在は物質的にも精神的にも最も進化していると思っているからです。これは、とんでもないことなのです。

確かに、物質的には最も進化しているかも知れません。しかし、精神的には、最も退化しているかも知れないのです。私たちは、こうした認識も欠く人間となってしまったようです。現在の地球上では、大規模な戦争は70年間起こっていませんが、局地的な戦争や暴動、知的な犯罪や卑劣な犯罪等は増え続けているのです。

アダムスキーの時代より人口が2倍以上増えた現在、当時より精神的に劣っているということになれば、現代の地球人は永遠を知らないままどれだけ消滅してしまうのでしょうか……。

## 「生命の科学」学習のポイントPart49

レクチャー4 「万物の相互関係」の7回目、「超能力開発の根本的基本」です。

初めに、彼ら異星人は、心のかわりに自己の意識をもって万物を観察すると言っています。これを言い換えて、「彼らは観察される個体があたかも自分であるかのようにその個体について意識的になるのです。たしかに相手は自分であるのです。全体から切り離された物は何もないからです。」と、最も核心と言えることを書いています。

友好的な異星人は、宇宙の意識という精神的なものと、宇宙という物質的な総てを一体として認識できているのです。理屈上でも、感覚的にも理解できているということです。このため、地球人にとっては、自分と異質に見える物質に対しても自分であるとの認識を持てるようです。これらの理解力や知覚力は、地球人では到底理解できない部分です。逆に言えば、この辺のところ地球人には未熟であり、これを理解することが重要であるということになります。

次に、同じ人間は存在しないので規範を定めないと書いています。つまり、自己流でよいということです。「ただ目覚めて、あなたの内部で働いている意識的な英知に気づくようになればよいのです。」ということです。こうすれば、いつか思考上の習慣になるということです。これは、私自身が経験していることで事実であると言えます。そして心と英知は一体化するのです。

続いて、人間は好き嫌いによって差別してはいけないと語ります。これは、人間が好まない低い現象があるからで、しかし宇宙は、総ての現象がなくては成立し得ないというのです。後半を要約すると、広く理解力をもって心を訓練する重要性について語っています。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編49>

#### “ 苦しい時の神頼み ”

普段は、信心のない人でも、苦しい時や心配事がある時には、神に祈って助けを求めるといふことです。普段は、神を信ぜず知らん顔をしているのに、自分が困った時には、信じていなかった神をも頼ろうとする、人間のあるしゅ身勝手なたとえで、当を得ていることわざです。



Q：今も高度な惑星から地球へ転生しているの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：このことに疑問を呈する人がいますが、これは間違いのない事実です。地球に人類が送り込まれてから、今日まで続いているのです。そればかりか、今も高度な惑星人が、ある程度の人数で地球人となって生活しているのです。彼らがいなければ、今の地球は、存在さえできなかったかもしれません。しかしながら、そのような支援があっても地球はこの有様です。実は、偉大な人こそ、地球に生まれると背負うものが大きいという法則が作用するからなのです。

#### 書物紹介

『ユダ福音書』の謎を解く』エレヌ・バイゲス、カレン・L・キング著 河出書房新社

1970年代に2世紀のギリシャ語本文からコプト語に翻訳された「ユダ福音書」の写本がエジプトで発見されました。本書は、紀元150年代に執筆されているということで、ユダ本人が書いたものではないとされています。ユダについてアダムスキーは、ユダはイエスを売ったのではなく、逆に相手を買収しようとしたのだが、だまされてしまったということです。彼は、当時そこにいて、知っているのだと言っています。その点でも興味ある1冊です。

#### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成27年1月10日(土)、3月7日(土)、は、府中グリーンプラザ(宇宙を知る会等で予約)。5月9日(土)、7月11日(土)、9月5日(土)は、台東区民会館となります。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

#### 【編集後記】

昨年は、大きな災害や悲しい事件が多く、いよいよ、時が近いことを感じさせる年でした。今年も続くでしょうが誰もが宇宙の意識と共に！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

#### G・アダムスキー通信 <第49号>

発行日 平成27年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

# G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

G・アダムスキー没後、満50年となる本年、期せずして本紙発行第50号を迎えることができました。大変ありがたいことです。

その間、世界を見渡すと、アダムスキーやスペースピープルが望む世界から、軌道が逸れているように感じています。個々人や科学的な進歩という点では、随所に進んでいる人が存在しますし、ロボット工学や医療など様々な面で進歩していることは事実でしょう。

しかし、それらの土台である経済システムや社会システムを起因として、人と人との関係が希薄化し、物事の善悪などが見えにくくなっているのも事実でしょう。

内村鑑三氏は、その著「代表的日本人」の中で、「徳に代わる制度はない」と書いていますが、これは大変重要なことです。人間が、「徳」を持っているならば、制度など邪魔でありいらぬのです。徳があるならば、人間の本性にとって不都合なシステムであっても、何とかうまく使いこなすことができるでしょう。

しかし、この徳の薄い人間が集まるとなれば、悪いシステムはさらに悪く、良いシステムさえ良くない方向へ傾くことでしょう。「徳」というのは、人間的な損得を超え、普遍的な価値を認め従うことのできることで、神の御心に従う行為、言うなれば、宇宙の意識に従う心なのです。「徳」を持つならば、これから先、何も恐れることはないでしょう。

しかし、現状を見るに、他人は信用できなくなり、犯罪が増え、貧富の差が増大し、お金最優先の生き方などが増えてきています。これでは、決して平和な世界は成立し得ないでしょう。

最近、フランスのトマ・ピケティ教授が「21世紀の資本」という書物において、資本は相続され、資本のある家庭とない家庭との差が世代ごとに関いていくという研究成果が注目されています。これは、資本主義において当然ですが、誰もそれを書いていなかったのかと愕然とします。

私たちは、世界が好ましい方向へ向かっていないとしても、諦めることなく世界平和を目指し、志ある者同士が励まし合いながら、希望をもって力強く生きていかななくてはなりません。

## “言葉に注目”

＜…人々を援助しようとして、地球へ帰ることを希望する人々がいる。＞

by アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

この文の前に、「この地球でなをも進歩しようとしている」という言葉が入ります。つまり、地球上で進歩しようとして努力している人々を援助しようと、他の惑星からスペースピープルが来ていると言っているのです。その方法は、生まれ変わりによって来る場合や、肉体をもって宇宙船で来て、地球人となる場合があると伝えています。

過去においては、「創世記」6・2と6・4に書かれているものとして、「神の子たちは人の娘たちのところには行って、娘たちに子供を産ませた。彼らは昔の勇士であり有名な人々であった。」を引用しています。これは、過去において地球人で有名であった人間が、異星人となって地球へ帰還し、地球人の娘をはらませたという意味のようです。

このような記載は多く、地球人と遺伝的に変わらない異星人存在の証拠だとしています。今日でも、このことは事実であり、地球への支援が継続していることを疑うことはできません。

## 「生命の科学」学習のポイントPart50

レクチャー5 「意識、英知、生命力」の1回目です。

冒頭、「われわれは実際には目に見えない生命の海の中に住んでいます。」として、われわれは目に見える物と見えない物との両方に同時に気づくように、自分を訓練する必要があると繰り返し述べています。

これを繰り返し述べるのは、人間が目に見える物のみで心に注目しているからです。そこで、「万物は最低の物から飛躍していわば不可視の空間をのぞき込んでいます。」と書いています。つまり、あらゆるものは、目に見えない世界（意識の内奥）をのぞき込んでいるというのに、どうして人間はそれをしようとしないのかということなのです。

その理由は、万物は、子供が母親の指導を求めるように、創造主（宇宙の意識）を頼りにしているからだということです。次を要約すると、人間は、宇宙の意識を頼らずに、自分と変わらない他人の意見や物事、物理的な現象界を頼って生きてると語っているようです。

次に、水（あるいは空気など）は目に見えない物だけれど、それを心が知ることができるのは意識があるからだということで、この辺は、深く噛みしめないで理解しがたいところです。

続いて、「意識は人間が分類しているような光や暗黒という振動を知ってはいません。また善や悪を知ってはいません。」と書き、それらは人間の誤用であるとしています。

最後に、人体や心は意識を離れて生きられないので、「万物の両親である意識という教師の声に人間が心向けようと努力するのが人間の義務なのです。」と繰り返し述べています。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編50>

#### “思い立ったが吉日”

何かを始めようと思い立ったら、その日からすぐ始めるのが良いという教えです。吉日とは、歴でいう縁起の良い日で、それを待っていたのでは、時機を失ったり気持ちが覚めて、実現に至らないことでしょう。私たちも、思い立った日を吉日と考えたて行動いたしましょう。



Q：地球の仕事は悪に加担？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、このように考える人がいるようです。社会的には、何ら問題のない職業でも、消費者が問題を起こしたり、中毒となるような場合があります。そのことに責任を感じるというものです。ここで重要なのは、仕事に対する心の持ち方です。自分が関わる業務に対して、常に奉仕の心を持ちながら行うのであれば、その想いは、商品に刷り込まれ、使う人に良い影響を与えるに違いありません。このような心掛けが大切なのだと思います。

#### 書物紹介

#### 『エネルギーとコストのからくり』 大久保 泰邦 著 平凡社新書

著者は、現在、産業技術総合研究所に勤務するエネルギー関係の専門家です。

本書では、狩人が使うエネルギーと、獲ったウサギが持つエネルギーはどちらが大きいかという視点や、生っているリンゴは、採りやすい下の方から採る理由を踏まえ、石油やその他のエネルギー資源についてQ&A方式で書かれています。この考えによれば、シェールガスやメタンハイドレードは、日本を救えないということのようです。平易に書かれた良い書物です。

#### 学習会案内

#### 『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成27年3月7日（土）、は、府中グリーンプラザ（宇宙を知る会等で予約）。5月9日（土）、7月11日（土）、9月5日（土）、11月7日（土）は、台東区民会館となります。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

#### 【編集後記】

「G・アダムスキー通信」発行50号、大したことはありませんが、一応の区切りとして意義があると思っています。今後もよろしく！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

#### G・アダムスキー通信 <第50号>

発行日 平成27年3月10日  
編集発行 国際アダムスキー普及会  
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1  
発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）